



躍進！東京2025

デフリンピックへの挑戦

めざせ金メダル！！

2025年、パラリンピックよりも長い、100年を超える歴史をもつデフリンピックが、日本ではじめて開催されます。

今回は、デフバレーボール(①)で金メダルをめざす大学生で双子の梅本綾也華さん(姉)と、沙也華さん(妹)にインタビュー。

バレーボールを通じて、みんなが共に生きる社会をつくる強さに迫ります。

①デフバレーボール
6人制で行われ、一般のバレーボールのルールと同じ。選手たちのスピードや高さを活かした、ダイナミックなプレーが大きな魅力。手話やボディランゲージなどを使って、コミュニケーションを図っていることも特徴のひとつ。



デフバレーボール世界選手権(沖縄)での梅本沙也華さん(左)と綾也華さん(右) ※梅本姉妹提供



デフバレーボール世界選手権(沖縄) ※梅本姉妹提供

「お互いの存在がお互いを助け、乗り越える力を与えてくれている」と2人は強さの秘訣を語ります。

「普通に通じてくれています。手話を覚えたチームメイトが他の人に手話を教えてくれているのを見ることや、他大学の人も手話を教えてほしいと言われることも多くあり、うれしく感じています。」

バレーボールでも、「耳がきこえないの言い訳にしたいくない」と目で見える判断を鍛えた結果、沙也華さんは大学2年生の時にレギュラーを勝ち取るこ

「お互いの存在がお互いを助け、乗り越える力を与えてくれている」と2人は強さの秘訣を語ります。

「お互いの存在がお互いを助け、乗り越える力を与えてくれている」と2人は強さの秘訣を語ります。

コロナ禍で悔しい思い

デフバレーボールでは、高校1年生の時から日本代表として活躍しています。前回出場した2022年ブラジル大会では、日本選手団の間で新型コロナウイルス感染が広がり、準決勝まですすんでいましたが棄権することに。

「デフリンピックはこれまでお世話になった家族やチームメイト、スタッフに恩返しできるいい機会だったのに本当に残念だった」とその時の気もちを2人は振り返ります。

Profile

生年月日:2003年1月14日生まれ **出身:**大阪市
所属:京都産業大学4回生
一卵性双生児。父と母の影響で小学校1年生から、バレーボールをはじめ。高校は履正社高等学校、大学は京都産業大学とバレーボールの強豪校で、きこえる人とともにバレーボールに打ち込む。デフバレーボールでは、高校1年生から日本代表に選出される。2024年6月に開催されたデフバレーボール世界選手権2024沖縄豊見城大会では、チームの優勝に貢献する。

梅本 綾也華
うめもと あやか
デフバレーボール
女子日本代表
キャプテン(背番号1)

梅本 沙也華
うめもと さやか
デフバレーボール
女子日本代表
エース(背番号9)



梅本綾也華



梅本沙也華

両親を超えたい

両親ともに元デフバレーボール日本代表選手で、父は元キャプテン、母は2001年にローマで開催されたデフリンピックの金メダリストと、幼い頃から父と母のプレーを見て育った2人は、小学校1年生から地域のクラブチームに所属。「両親を超えたい」、その強い思いは今も大きな原動力になっています。

一球入魂 すべてを拾う

「音がきこえないのでワンタッチがあつたか分かりづらく、目で見て想像して、分かなければすべて拾いにいくようにしています」と語る妹の沙也華さん。

「ボールが落ちるまでは手話などで会話ができないので、前もって動きを決めておいて、メンバーみんな積極的にコミュニケーションをとり、情報共有します」と大切にしていることを話す姉の綾也華さん。

2人は、先天的にほとんどきこえず、現在は、デフバレーボール日本代表選手として活躍しています。

自分らしく乗り越える

そんな梅本姉妹を支えてくれたのは家族や友だち、チームメイトでした。家族からは「自分に自信をもって自分らしく」と励まされ、前向きな気持ちになることができました。

友だちやチームメイトも何も気にせず、普通に接してくれています。手話を覚えたチームメイトが他の人に手話を教えてくれているのを見ることや、他大学の人も手話を教えてほしいと言われることも多くあり、うれしく感じています。

きこえないという壁

高校では指文字を、大学では手話を使って、チームメイトとコミュニケーションをとってきました。

高校も大学も、聴覚に障がいのある人の受け入れははじめてでしたが、プレーに専念でき、生活しやすい環境をつくってくれました。

それでも、「きこえる人と比べて技術に自信がない、きこえないからできない、みんなに迷惑をかけて申し訳ない」と落ち込み、大きな壁を感じることがあつたと、2人は振り返ります。

小学校、中学校で才能が開花し、高校は履正社高等学校、大学は京都産業大学と、バレーボールの強豪校に進学。現在は大学4回生です。



東京2025 日本初開催 デフリンピック

大会期間：2025年11月15日～26日
(12日間)

参加国：70～80か国・地域

選手数：約3,000人 **競技数**：21競技

～ デフリンピックとは ～

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「聞こえない、聞こえにくい人のためのオリンピック」。国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。

引用：東京2025
デフリンピック大会情報サイト
<https://deaflympics2025-games.jp/>



デフバレーボール世界選手権 予選リーグ イタリア戦 ※梅本姉妹提供

世界選手権優勝 金メダルへ

2024年6月に沖縄で開催されたデフバレーボール世界選手権では、見事金メダルを獲得しました。

綾也華さんはキャプテンとして、沙也華さんは、ベストアタッカー賞、ベストスコアラー賞、MVPを獲得するなど、チームの優勝に大きな貢献を果たしました。

大学の大会や練習は残念ながら終わってしまいましたが、クラブチームでの練習や日々の自主練を欠かさず、次のデフリンピックに向けて、2人の挑戦はつづいています。

代表チームとしての練習は月に1回、合宿形式で行われています。海外の選手を想定し、男子の選手の攻撃をブロックするなどの練習を重ねています。

日本の強さである速さを意識した攻撃や相手を混乱させるプレーなど、チームメイトとのコミュニケーションを大切に、日々技術を磨いています。

デフリンピックで夢を与える

今後の抱負について、デフリンピック、デフスポーツ、デフバレーボール、それぞれの知名度をあげて、応援してもらおうを増やしたいと綾也華さん。「耳が聞こえない人でも、障がいがあっても、いろいろなことに挑戦できることを伝えたい、子どもたちに夢を与えたい」と沙也華さん。

大学卒業後は、一般企業に就職し、デフバレーボールをつづけていくという梅本綾也華さん、沙也華さん。

今年は蛇年。蛇のようにたくましく変化、成長していく2人のさらなる活躍とデフリンピックの金メダル獲得に期待が寄せられます。



アンケートに答えていただいた方から

抽選で5名様に梅本姉妹のサイン入りタオルを(左写真)プレゼント!

応募締切

2月14日(金)

読者プレゼント



右記の2次元コードから応募フォームにそってご回答ください。ご応募お待ちしております。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

※応募者の個人情報はプレゼントの発送のみに使用します。

※重複応募・必要事項の入力漏れは無効となりますのでご注意ください。

世界選手権での応援グッズ。家族とともに